

(独)放射線医学総合研究所において実施した 福島県民の内部被ばく調査結果の概要について

平成 23 年 7 月 28 日
原子力被災者生活支援チーム

1. 調査の目的

今回の調査は、福島県が主体となって実施する「県民健康管理調査」事業の一環として実施されたもので、1) 線量が高いと思われる地域住民の内部被ばく線量の推定 および 2) 尿の測定により、ホールボディカウンタ(WBC)を受けるカットオフ値の検討を目的として、6月27日から7月16日まで、(独)放射線医学総合研究所において実施されたもの。

2. 測定の対象者

浪江町 90 人、飯舘村 20 人、川俣町（山木屋地区）12 人、合計 122 人
(今回示す結果は、7月10日までの109人)。

3. 測定項目

ホールボディカウンターと尿のバイオアッセイ法によるセシウム 134、同 137 及びヨウ素 131。

4. 結果の概要

- (1) セシウム 134 は 109 人中 52 人 (47.8%) に検出され、そのうち最高値は 3,100 Bq であった。その他は検出限界以下であった。
- (2) セシウム 137 は 109 人中 32 人 (29.4 %) に検出され、そのうち最高値は 3,800 Bq であった。その他は検出限界以下であった。
- (3) セシウム 134 と 137 両者ともに検出された者は 109 人中 26 人 (23.9 %) であった。
- (4) 尿のセシウムは、ほとんどの方が検出限界以下であり、WBC による線量との相関ははっきりしない。
- (5) ヨウ素 131 は、全て検出されなかった。

今回の調査は、内部被ばくが他の地域に比べ、高い可能性がある地域の住民を対象に行ったが、セシウム 134 及 137 による内部被ばくについては、合計しても 1 mSv 未満であり、相当に低いと評価できる。

以上